

鶴岡市総合計画審議会 第3回社会基盤専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年6月26日(火) 午後2時～4時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター「にこふる」3階 大会議室
- 委員発言の概要

（意見等の概要）

- ・ 保育士の資格はなくても高齢者の人が子供達と一緒にあって、そこで遊んだり勉強したりそういった事を学童保育とかそういったところに、高齢者の人を向けていけるような仕組みを作る
- ・ 学童保育などを考えても、職員の不足を補う為の高齢者だとか、若い人も参加できるとか、そういう運営できる体制
- ・ 地域の人とのかかわりを設計に取り入れていくことを大事に考えていくところがある。保育園や認定こども園の小さい子供達だけでなく、小学校のお父さんお母さんの帰りを待つ子供達、その時間帯に高齢者の方たちとどう結びつけていくか仕組みを考えるのが大事
- ・ 交流人口を増やす施策は観光しかないのでは。
- ・ 人づくりについては、郷土愛だろうと思う。
- ・ 交流人口は観光しかないと思う。観光を、この地の魅力をみんなで共有できるのか、そういう議論が必要
- ・ 60代から80代の人やバンク的なものがあって地域にいる。そういったところでおこづかい稼ぎになるくらいの形で協力できるのでは。
- ・ 滞在フォーラムとか、道案内のシステムにしても、そういうのを構築していてもいい。
- ・ 内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化を伝承というのは当然絡んでくる。

- ・まず何かをキーポイントにして、ここからいろんな事を考えていきましょう。というような考えは市にはあるのか？ないのか？
- ・60代70代をどう使っていくとか、気持ちよく働いてもらえるとか、どう受け入れるとか、それに関連して社会のシステムをどうするかとか、そういう議論がものすごく大きなテーマだと思う。
- ・観光、子育ての問題、あるいは郷土愛とかみんな関係してくる。
- ・これまで作ってきて耐用年数がすぎそうな建物をこれからどうやってマネジメントしていくのかとかが大きなポイント。
- ・廃校を利用して蚕を飼うということを鶴岡市が取り組んでいるという話を聞いた。
- ・シルクというのがあるのに松ヶ岡が活かされていない。観光客もバスで行けない。そういった交通網もいかなものか。
- ・出羽三山神社の斎館は羽黒山で一番古い建物だが、地元の方にもあんまり知られていないし、活用していない。
- ・致道館は、あそこで戊申戦争中の歴史があったり、すごく貴重な鶴岡の資源だと思う。
- ・あるものをいかにきちっと活かしていくか。プラスそういった資源の所に若者たちがいろんなアイデアでベンチャー的にやっていけるような仕組みが必要でないか。
- ・生活動線の交通網だけでなく、観光客の目線に立った交通網の整備が必要。
- ・せつかくある資源を活かせるように、情報とかアクセスしやすいようにする必要はある。
- ・ハブが若者とかお年寄りの集まる場所になったり、観光客にとっても分かりやすいレバレンスポイントになったり、いろんな意味でいい。

- ・外国人労働者については、企業だけが抱える問題でなくて、社会で支えていくのが大事。
- ・計画的な社会基盤整備
- ・車社会ではあるけども、バスや交通の便ももうちょっとスムーズにすると移動しやすかったり、フットワークももっともっと軽くなるのではないかな。
- ・鶴岡市も広いので、温海から羽黒とかを何日かの体験プログラムとかで周る。
- ・交通の便がスムーズであればいろんな所に寄って、おいしいものを買ってきたり、良い景色眺めたり、いろんな体験ができる。
- ・空いたスペースもいろいろ遊んだり、学んだり、伝えたりできる。
- ・バスも今どこにいるのかという運行システムをW i F i で必ず分かるとかすれば、外国人もバスを使える。日本人も使えるとか。今経路が非常にわかりにくい。バスハブも分かりやすくして良い。
- ・10年前の鶴岡を見てみて、今何が残っていて、何が大切にされていて、どういうものが無くなってしまったのかを考えてみるのも、逆説的ではあるが必要ではないかな。
- ・空き家っていうのをこれから市としてどうやって活用していくのか、障害になっている条例とかがあるのであれば、見直すっていうのも必要ではないかな。
- ・冬期間の利用者が少ない自然体験施設になるので、何かできないかという事で地域で何ができるかという事を見つめなおしたところ、狩猟関係、生活文化が息づいている地域なので、鴨の解体で冬の暮らしを体験してもらった。あと、皆さん冬の山に入ってもらって、猟師さんと一緒にウサギの薪狩りを体験してもらった。
- ・地域の自然、歴史文化というのをみつめなおすというのは重要。ありきたりになってしまうと、今日本の中でいろんな事をしているので、この特色は

何か地域の中で考える機会をもうけていけば良いと思う。

- ・狩猟体験をして県外からの人が来るなら、市内での交流も加える必要がある。
- ・会社を退職して60過ぎてから一緒に農業をしてくれる方が最近増えている。
- ・鶴岡の観光を見ている限り、いろんな所で出羽三山だったり、加茂水族館だったり、全部バラバラに観光をPRしているのか、鶴岡市の観光というより一か所一か所で観光のPRをしているのでは。
- ・集中的に観光をPRするなら専門の部署を作った方が良い。
- ・小学校、保育園では、いろんな部分で、地域の先生がいっぱい入っているいろんな体験をしながら、お年寄りと子供達も交わって交流している姿はよく見ているので、鶴岡市の学校教育の場っていうのは他にない良い部分を持っていると思っている。それをもっと良い方向にしていければと思う。
- ・交流人口の施策としての観光が今はちょっとバラバラなのではという話が出たが、キャレットをある程度想定して、こういう人にはこことこことここと見てほしいとか、外国人にはこういうコースを用意するとか、インターネットでも見れるし、パンフレットにもあるし、宿泊施設の方にも徹底しているとか。東京から来る方にはこういう所。初めて来る方にはこういう所をみてほしいとか、きちっとした方向みたいなものを取り次がれていると、それぞれの観光地が自分の所はこういう役目を果たそうとかそういう発想も出てきて、結果的にはより一体感のある観光地に外から見ると見えるのではないかな。
- ・いろんなプログラムを作っていく、提供できるというのが必要。
- ・そういう時にどういうことを発信していくかというのは個々のところに任せないで、やっぱり鶴岡市の観光としては、どこに力を入れるのかを発信し、個々の観光地からどの部分に協力できるのかを把握する。
例えば、三十三観音へのお参りは今年は可能で、平成最後と銘打ってPRするとか。

- ・いろいろな意味で交流人口というのは観光客だけではなくてあるのかと思う。
- ・自転車をうまく使ったらどうか。観光地でもサイクルステーションってあって、乗り捨てができるようなのがあって、決済もすぐできるようなのがある。そのシェアサイクルとW i F i の構築がセットになれば、すごく行動範囲も広がるしいいと思う。
- ・自由に不動産でも流通させてたら勝手には収束していかない。何かしらインセンティブをつけるとかルールをつけるとかが絶対出てくる。自由な民間の流通の中で考えるとインセンティブを付けるのは重要。
- ・自転車活用を入れた社会基盤。
- ・空き家についても、街をコンパクトにする為のインセンティブをうまく活用する。
- ・60代から80代の人システムを作ればいいなと思っているし、それを作る事で観光とか人づくり、交流人口、豊かな文化の伝承だとかそういうところがカバーできていくのではないかな。
- ・歩道をもっと人が歩くところと、自転車とで分離するとか、フラットにするとか。
- ・所々に防犯カメラを設置する。
- ・除雪した時に大きい道路だと壁みたいになるが、これから高齢化社会になっていくと、その壁を除雪するのがすごく大変だ。
大きい道路の大きい壁になるところだけでも、除雪車が行った後に出入口に旗を立てて、ここここは除雪するとか登録したところだけでも除雪車が来るとすれば、高齢者の除雪の負担が減る。
- ・60代から80代の方の意見はとても良い意見だ。
若者を呼び込みたいことは呼び込みたいが、別の発想で高齢者を呼び込もうということも良いと思う。セカンドライフとかそういう感じで高齢者を呼んでも悪くない。

- むしろ帰れるなら帰りたい。ただ地元に戻っても仕事がというところがみなさん心配されているようだ。決して郷土愛を失ってさよならという形ではない。子供たちを信じて帰ってきてもらう。
- 地方の方に行って、老人ホームにつめこむのではなく、こちらではこういう事ができますよ、いい仕事がありますよと、「セカンドライフは鶴岡から」という発信ができたらいい。そうすれば田舎の空き家もあるし、中心部もあるし、空き家も埋まっていくのではないかな
- 鶴岡って歴史と文化を重視した街づくりを進めていたので、本当にきれいだし、シニア向けの街だと思う。
- アートフォーラムの水辺がすごくもったいないと思う。
夏限定でもいいから水辺を整理して、子供が水遊びできるようなスペースにするとか、鶴岡公園にはちょっとした遊び場が整理されていくという事だったのでぜひお願いしたい。石垣の一部にボルダリングとかそういうのを入れたり。所々でいいのでワクワクドキドキが隠れているような街づくりがいいのでは。
- 60代70代の活躍の仕方も、鶴岡方式が出てくればいい。